

徳山毛利家

現在伝わっている初代～七代までの歴代藩主の肖像画は、1830年八代 広鎮のときに制作されたものです。藩の御用絵師朝倉南陵とその子の震陵が描きました。

奇数代の藩主は、向かって左向き。偶数代の藩主は向かって右向きといった具合に並べて掛けるとちょうど向き合うように描かれています。



毛利元就像
就隆の曾祖父にあたります

初代 就隆 (1602～1679)

- 1617 3万石を与えられる
- 1650 藩邸を下松から野上に移し、その地を徳山と改める



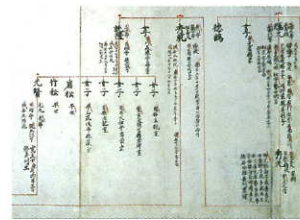
二代 元賢 (1670～1690)

- 1683 下松の御船蔵を遠石に移す



三代 元次 (1667～1719)

- 1703 城下に町名をつける
- 1715 万役山事件
- 1716 改易



御系図

四代 元堯 (1702～1721)

- 1719 藩が再興される



五代 広豊 (1709～1773)

- 1722 武具方以下の諸役所再建
- 1723 新藩邸完成



六代 広寛 (1733～1764)

- 1758 連歌師の飯田氏、山崎八幡宮に硯を奉納



七代 就馴 (1750～1828)

- 1785 藩校鳴鳳館開校



八代 広鎮 (1777～1865)

- 1831 藩校鳴鳳館、桜馬場に移る
- 1836 城主格を許される



早馬之抄図

九代 元蕃 (1816～1884)

- 1852 藩校鳴鳳館を興譲館と改称する
- 1869 藩知事に任命される
- 1871 山口藩に合併



十代 元功 (1851～1900)

- 1858 元蕃の養子となる
- 1868 鳥羽・伏見の戦い
イギリスに留学する



徳山真景図



金梨子地一文字三星沢海散大將簾